<報告>ドイツの図書館見聞記

著者	安保 邦彦
雑誌名	東邦学誌
巻	32
号	2
ページ	91-96
発行年	2003-12-15
URL	http://id.nii.ac.jp/1532/00000026/

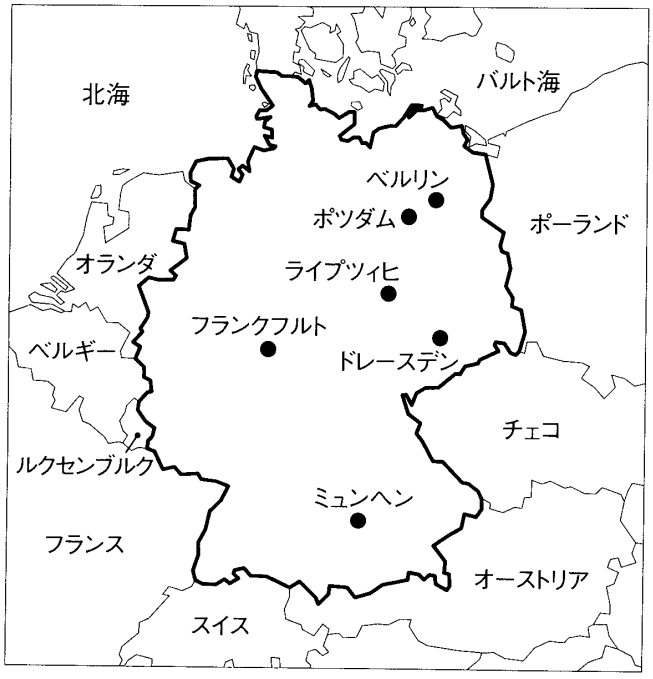
東邦学誌
第32巻第２号
2003年12月
報　告

ドイツの図書館見聞記

安　保　邦　彦

目　次

はじめに
1　二種類の国立図書館
　イ　国立図書館ライプツィヒ
　ロ　ライプツィヒ市とライプツィヒ大学
　ハ　国立図書館フランクフルト
　ニ　国立図書館ベルリン
2　もう一つの国立図書館、Saatsbibiothekベルリン
3　フンボルト大学とポツダム大学
　イ　フンボルト大学
　ロ　ポツダム大学



ドイツ略図

はじめに

筆者は、2003年９月初めに文部科学省の科学研究費補助金を使いベルリンを中心とする旧東ドイツ地域での起業支援策を調査する機会を得た。その際、調査の合間に各地の図書館や大学を訪れたので日本とは異なる図書館事情を写真を中心にしてご紹介する。ちなみにドイツの大学は、ほとんどが州立大学であり、月謝は無料である。

図書館の印象は、①建物がすごいというか、壮大である、②国立図書館は、NationalとStaat（英語のState）二種類があり、いずれも有料である、③閲覧室の机はパソコン対応となっている等に現れている。

今回の調査は、図書館を訪問するのが目的でなく途中で立ち寄った程度のため、その場に居合わせた職員や入館者、市民からの聞き取りである。文中の数字に関しては、図書館案内書などによるが、その他の事情の中には筆者の推測も含まれていることをお断りしたい。

1　二種類の国立図書館、Nationalbibliothek（ライプツィヒ、ベルリン、フランクフルト）

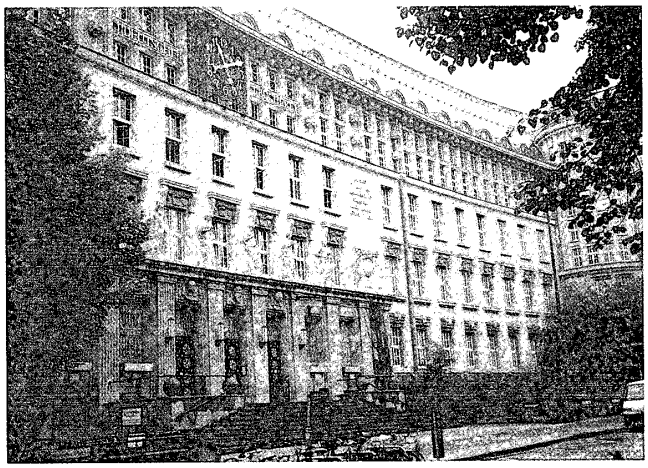
国立図書館（Nationalbibliothek）は、1990年のドイツ統一後、ライプツィヒ、ベルリン、フランクフルトとともに３大図書館とし

て発展している。bibliothekは、ドイツ語で図書館の意味である。3ヵ所の蔵書は、総計で1,740万点にものぼる。

イ　国立図書館ライプツィヒ

ライプツッヒ（Leipzig）市の中心街の端しに国立図書館（Nationalbibliothek）があった。

正式の名前は、「ドイツ図書館ライプツィヒ」である。



ライプツィヒ国立図書館

この図書館は、1912年に出版物の販売および発行業者によって設立されたものである。

蔵書は、1913年以来、ドイツで発行されたドイツ語の書籍、翻訳もの、文学などを集めており、その総数は、特別なものを除いて960万点である。内訳は、次の通りである。

- 書籍　520万点
- 定刊行の雑誌　5万3千点
- 大学の論文　100万点
- マイクロフィルム　65万点
- その他　230万点
  （特別な関連資料など）

なかでもアンネ・フランクの蔵書は、ユダヤ人追放と迫害に関する国際的な研究図書となっている。閲覧室には、約450席の椅子があり、机はパソコン対応となっており大半の人がノート型パソコンを使っていた。年間に利用されるのは、51万冊であるが、利用料を取るのが特徴であった。料金は、以下の通りである。

- 1日の利用者　2.5ユーロ
  （9月初旬は1ユーロは、132円位であった）
- 月間の利用者　10ユーロ
- 年会費　30ユーロ

利用時間は、月曜日から金曜日までが午前8時～午後10時まで、土曜日は午前9時～午後6時までである。

ロ　ライプツィヒ市とライプツィヒ大学

ライプツィヒ市は、1409年にハイデルベルク、ケルンに次いでドイツで3番目のライプツィヒ大学が創立された由緒ある街である。この大学では、文豪、ゲーテや哲学者、ニーチェのほか森鴎外も学んだ。1650年には、世界で最初の日刊紙である「ライプツィヒ新聞」が創刊され、第二次世界大戦までは、ドイツの出版物の半数がこの街で印刷されていた。岩波文庫は、ライプツィヒで出版された「レクラム文庫」を参考にして作られたそうである。

ライプツィヒ図書館内には、こうした歴史を反映した「書籍・印刷物博物館」が併設されており書物や印刷技術の変遷が時代別に分かるように展示されている。ところで旅行案内書の中には、「市の中心に35階建てのライプツィヒ大学を目指して歩こう」などと書かれているものがある。実際はというと、この建物が新しい高層建築に変ってしまってライプツィヒ大学がないのである。大学が、資金難でドイツ銀行などに土地を売り跡地に30数階建てのビルが建っていた。

大学本部は、もとより各学部も市内各地に分散しており跡地脇には、5階建ての数理・コンピュータ部門の校舎が残っているだけであった。従って、市内で大学の大きな図書館も見当たらなかった。

ライプツィヒ大学跡地に建った高層ビル

ハ　国立図書館フランクフルト

設立されたのは、1947年であるが、統一後に国立図書館となった。この図書館は、1945年から1996年の間にドイツおよび海外で発行された全ての刊行物と1933年から1945年の間に国外へ流れた刊行物を所蔵している。その主なものは、次の通りである。

○書籍	360万点
○定期刊行もの	4万6千点
○大学の論文	72万5千点
○マイクロフィルム	86万点
○国外へ流失したもの	3万3千点

座席は、325で、年間の利用冊数は44万冊になる。

二. 国立図書館ベルリン

これは、ベルリン市のゲルトナー通りにある音楽関係の専門図書館である。1973年以来の音楽関係の資料、音声、録音などを集めているが、1945年までさかのぼって収集する努力も続けられている。

2　もう1つの国立図書館、Staatsbibliothek ベルリン

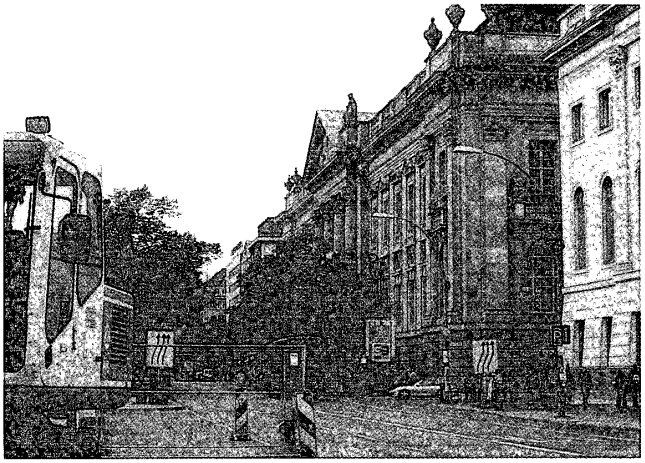
もう1つの国立図書館が、ベルリン市内の中心地、ポツダム広場とウンターリンデン通りにあった。Staatは、ドイツ語で国家を意味する。ライプツィヒなどにあったNationalの図書館との違いは、前者がドイツ統一後に全国の地理的なバランスを考えて創設されたものである。これに対して、Staatは、その土地の由緒ある図書館を母体にしてやや地方色を反映した国立図書館だと思われる。

国立図書館ベルリンは、ポツダム通り館、ウンターリンデン通り館のほかに新聞センター、絵画・古文書館の4館がある。蔵書の総数は、書籍が1,000万点、その他定期刊行物、音楽関係資料、地図、マイクロフィルムなどを所蔵している。4館のうちの1つ、ウンターリンデン館は、希少本、子供と若者向けの本に特徴があり、音楽、地図関係の特別室を開放している。

入り口には、「プロイセンの文化遺産」と書かれた銘文が掲げられている。

「国立図書館ベルリン、プロイセンの文化遺産」と書かれている

事実、この図書館は、1903年から1914年の間にプロイセン王国の王室用図書館として建設されたものである。



国立図書館ベルリン・ウンターリンデン通り館

国立図書館ベルリン（ポツダム通り館）

一方、ポツダム通り館は、一般図書のほか東欧、中近東、東アジア地域の収集物や写本、地図などに特徴を持っている。

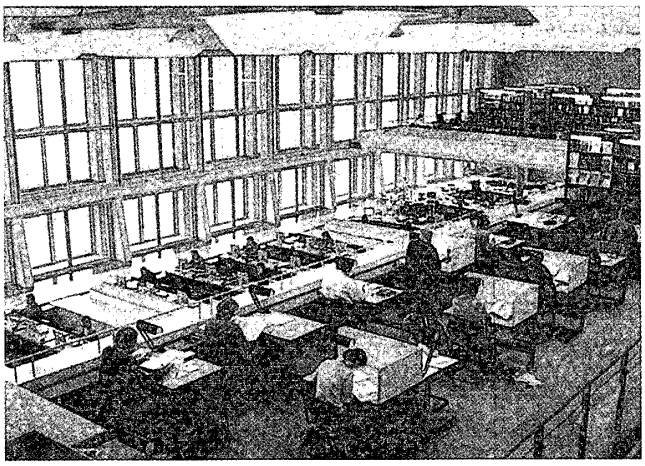
国立図書館ベルリンの案内書によると、18歳以上の者は、誰でもが利用できる。ただし利用料は次の通りである。

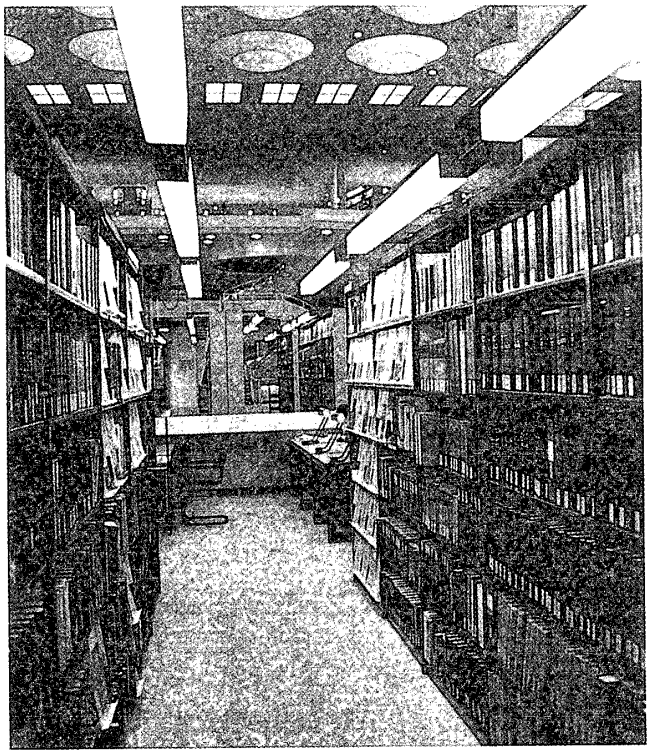
- 1日　0.5ユーロ
- 1週間　2.5ユーロ
- 年間　15ユーロ

貸し出しを受けるには、EUの人はドイツの居住証明書が必要である。非居住者の場合は、パスポートか警察の証明書あるいは3ヵ月以上の居住証明書または大学の就学証明書を提出しなければならない開館時間は、以下の通りである。

- 月曜日～金曜日　午前9時～午後9時
- 土曜日　午前9時～午後5時まで

ベルリン国立図書館には、支援者が組織されているのも特徴の1つである。それらの名前は、ベルリン図書館友の会、ベルリン・メンデルスゾーンソサイエティー、国際カール・マリア・フォン・ウエーバーソサイエティー、地図製作友の会などである。





国立図書館ベルリンの内部

3　フンボルト大学とポツダム大学

イ　フンボルト大学

国立図書館ベルリンの隣りにフンボルト大学がある。

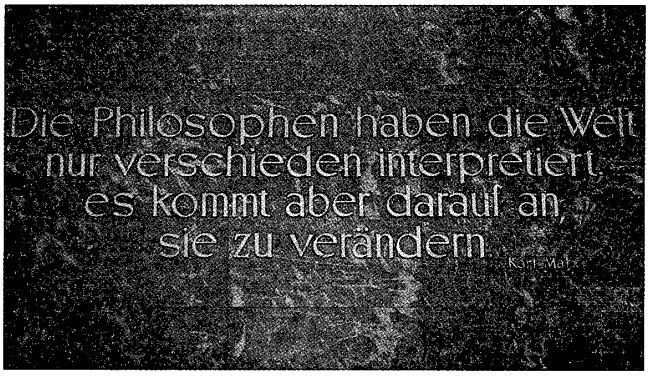
フンボルト大学正面

もともとフリードリッヒ大王の２世の弟であるハインリッヒの宮殿であったが、有名は言語学者であるヴィルヘルム・フォン・フンボルトの発案により1809年からフンボルト大学の校舎として利用されている。この大学では、資本論の作者で知られるカールマルクス、哲学者のヘーゲル、科学者であるアインシュタイン、童話作家のグリム兄弟らが学んだところとして現在もベルリンで一番人気のある大学である。

正門の重い扉を開けて入ると、正面の階段の正面に次のような文字がドイツ語で刻まれている。

Die Philosophen haben die Welt nur verschieden interpretiert, es kommt aber darauf an, sie zu verändern

Karl Marx



フンボルト大学の正面階段にあるマルクスのことば

「哲学者は、世の中を色々と解釈するが、問題は変革することなのである」という言葉である。ところで、大学の中央図書館は夏休みで見学できなかったが、各学部には日本の大学と同じようにそれぞれのこじんまりとした専門図書室があった。

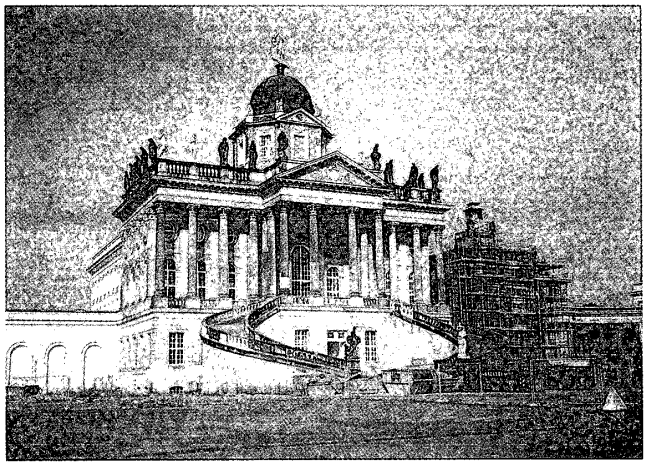
ロ　ポツダム大学

ベルリン郊外のポツダムは、第２次大戦の末期に米、英、ソ連の首脳会談が開かれドイツ戦後処理と日本を降伏させる方法を協議したところとして知られている。また、プロイセン王であったフリードリッヒ大王の夏の居城として有名なサンスーシ宮殿、新宮殿は観光名所となっている。

ポツダム大学の新宮殿キャンパスは、その新宮殿の建物の一部を校舎と図書館に使っている。

ポツダム大学サンスーシ新宮殿キャンパスの校舎の一部　この中に図書館がある

その隣りの古い建物は現在、改修中で、完成後は専門図書館として使用予定である。



ポツダム大学新宮殿キャンパス
修理中の専門図書館になる建物

ドイツ連邦政府は、1997年から大学からの起業を増やすためのプログラム、EXST (Existenzgründung aus Hochschulen) を推進中でこれに参加する地域を全国から公募している。ポツダム大学を核とするポツダム地域は、2003年から始まった第2次の募集で同地域が支援の対象に選ばれポツダム大学はキャンパスの増改築に追われている。

以上